

2022年度 子どもセンターただON 事業実績

＜1＞子育て支援事業

【定期事業】

＜自由参加＞	目的	主な内容	対象	日時	開催回数	参加総数	様子・成果
0歳あつまれ！	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して子育てスタート期を過ごすことができる ・親子のコミュニケーションが豊かになる ・地域の子育て力が向上する 	ふれあい遊び、体操、交流、手形足形スタンプ、おはなし、おはなしなど	0歳～1歳3ヶ月ぐら いまでの乳幼児と 保護者	毎週金曜日 午前10時30分～ 11時30分	35回	806名	感染症対策の為、1階プレイルームで行っていたが、会場が広すぎて保護者同志の会話もしづらいため、9月から2階の部屋での開催に戻す。育休中の父親や毎回欠かさず参加してくれる常連の方たちも多かった。ただONでは、毎週おこなっており、他地域から参加する方もいて、毎週あると参加しやすいとの声もきかれる。 赤ちゃん連れのママがやってくれるベビヨガや地域の民生委員さんによる手形足型とり、離乳食の育児講座の開催など飽きないように変化をつけて開催している。 本事業をきっかけに来館する親子も多く、子育ての悩みの共感、情報交換を通じて、子育てに対する不安の軽減につながっている。
親子であそぼON	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て期を楽しく過ごすことができる ・親子のコミュニケーションが豊かになる ・地域の子育て力が向上する 	スキンシップを中心とした親子遊び、手遊び、親子体操、運動遊び、おはなし、工作など	乳幼児と保護者	木曜日(第3を除く) 午前11時～ 11時30分	27回	651名	毎回、『親子体操・ふれあい遊び・運動遊び・工作・お話し』の流れを基本に実施する事で、参加者の定着をはかる。当日の参加者の年齢や様子によって、運動遊びを長くしたりと変化をつけて行っている。親子によっては、好きなところだけ参加するということもある。季節の工作も月1回行ったり、月に1度、青少年委員さんのご協力により設ける『手形足形コーナー』を楽しみにしている保護者も多かった。 事前の申し込みが不要で、気軽に参加できることや、毎週くることで知り合いができたり、子どもの変化を保護者と共有したり、子育ての時期を楽しんでもらう場の提供となっている。
親子であそぼON Sunday!	<ul style="list-style-type: none"> ・(平日就労している保護者も)子育て期を楽しく過ごすことができる ・夫婦・親子・家族間のコミュニケーションが豊かになる ・地域の子育て力が向上する 	10時30分～大型遊具での自由遊び 11時～スキンシップを中心とした親子遊び、手遊び、運動遊び、おはなし、工作など	乳幼児と保護者	第2日曜日 午前10時30分～ 11時30分	11回	296名	休日の乳幼児プログラムの開催は、平日のプログラム以上に忠生地区以外の地域の親子の参加があり、需要を感じている。全体プログラムの前の大型遊具での自由遊びも好評で、この日は開館とともに乳幼児親子の来館が多い。きょうだい連れの参加もあり、年齢も幅広いが、それぞれ家族で参加し楽しんでいく姿がみられる。平日母親ときてくれている子が父親と一緒に参加してくれたり、平日は仕事をしている方などが参加してくれ、幅広い層の親子の利用につながっている。
【ボランティア】 わくわくおはなし会 協力《ひろば文庫》	<ul style="list-style-type: none"> ・親子のコミュニケーションが豊かになる ・多様な児童文化に触れ豊かな情緒が育まれる ・地域の人材を活用することで安心して地域の中で子育てができる 	絵本・紙芝居・ペープサート・パネルシアター・人形劇など	乳幼児と保護者	原則第3木曜日 午前11時～ 11時30分	11回	195名	感染症対策の為、前半はプレイルームで実施していたが、おはなしを楽しむには広すぎて集中がしづらく、参加人数もそこまで多くないため、以前やっていた乳幼児ルームに会場を変更して行う。10月は、フルーツとのコラボ、1月には和太鼓とのコラボなどスペシャルな回もあり、季節にちなんだ内容となっている。時には参加者が手拍子をいれたり一緒におはなしに参加する企画もあり、飽きないような工夫がなされており、親子でじっくり絵本やおはなしの世界に浸れる時間の提供となった。

【不定期事業】

＜自由参加＞	目 的	主な内容	対 象	日 時	費 用	参加総数	様 子 ・ 成 果
【出張】 みんなであそぼON! INはちぼう	・忠生地域のただONから離れた地区に住む幼児とその家族に、子どもセンターのプログラムを提供する ・はちぼう・ただON双方の利用者が両施設について知ること、地域の資源をより有効に活用し楽しく子育てができるようになる	紙芝居・簡単なゲーム・工作 ※谷戸池冒険遊び場で開催	どなたでも	①11/23(水・祝) ②2/23(木・祝) 午前11時～午後1時	なし	①2名 ②16名	11月の回は、天候が悪く、谷戸池公園に遊びにくる人がおらず、常連の子ども二人と工作をしたり、話をして過ごす。2回目は気持ちの良い青空のもと幼児親子や小学生が遊びにきていて、こちらの持参した工作やさかなつりなどの遊びを提供する。ただONのプログラムなどに参加してくれた顔なじみの親子も「はじめて訪れた公園だったが、いいところですね」と言って、谷戸池公園の冒険遊び場の紹介に役立った。また、ただONにはきたことのない方もいたので、ただONのPRも行い、双方の子どもの居場所の周知につながった。参加してくれた子どもや保護者、冒険遊び場の方とも、外遊びや小山田や忠生地域についておはなしでき、交流を深めることができた。
パパと遊ぼう! 共催《忠生地域子育て相談センター》	・ただONと忠生地域子育て相談センターが連携し地域の子育て家庭の支援を行って一環とする ・父と子の関わりのレパトリーを増やし、父親の育児参加を促す ・地域の父親同士の交流の場を提供する	・ふれあい遊び ・パパの交流タイム ・工作 ・お楽しみ(親子体操等)	0歳～就学前の子どもとその父親(母親は自由参加)	12/18(日) 午前10時30分～11時30分	なし	21名	父親の参加は10名。0歳児が半分以上いて途中で寝てしまう子もいたので、予定よりも父親同士の交流の時間を長くとり、子どもの寝かせ方、得意な家事などのテーマについて、他の方の方法をきいたり、自分はこんな方法をしているなど活発に意見交換が行われ、大いに盛り上がった。職員の紹介なども行い、父親と一緒にきていた母親にも両センターのアピールができた。
保育コンシェルジュによる 保育園・幼稚園等の 選び方講座 共催《保育・幼稚園課》	・保護者の方に様々な選択肢があることを理解してもらい、正しい情報を提供する ・各家庭や子どもに適した保育園選びのサポートをし、育児負担の緩和をはかる ・町田市の保育コンシェルジュの紹介	・町田市の保育園幼稚園等の現状について ・園の選び方・見学のポイント ・申込手続きについて	町田市在住で第一子または、子どもを初めて保育園等に預けたい方	6/22(水) 午前10時30分～正午	なし	8名	スクリーンに映される画像と手元の資料を見ながらの1時間の説明の後、質問タイムとなった。「保育コンシェルジュの存在を初めて知った。」「わかりやすい説明だった」などの感想があり、保育園等を選ぶ際の考え方の周知と、町田市の保育コンシェルジュの存在の宣伝につながった。また、同じ状況の保護者同士の情報交換の場にもなり、知り合いづくりにもつながっていた。
ベビー用品回収会 共催《3R推進課》	・ゴミの出ないライフスタイルを提案する機会となり、ごみ減量の促進と意識向上を目指す ・エコな子育てを楽しむ ・安心して子育てができる地域だと感じてもらう ・ただONを、子育て支援拠点の一つと認識し、足を運んでもらう	市民から市民へ、修理などを必要としない再利用可能なベビー用品を無料で回収し、必要とする方へ提供する	ベビー用品を提供したい、又は手に入れたい市民の方	10/2(日)回収会 午前11時～午後2時	なし	48件	今年度は、近隣にバイオエネルギーセンターができ、そちらで配布会をするため、ただONで、回収会をのみ開催となる。玄関前の駐輪場で行ったが、混雑することもなく回収が行われた。最終的にトラック1台分のベビー用品が回収することができた。
つながる町だふぁみりー×ただON ベビー&キッズ用品くるりユースタイム 共催《つながる町だふぁみりー》	・地域の方の活動を支援し活躍を促し、地域力の向上を目指す。 ・ただON利用者と同じママの立場からアドバイスや地域情報の提供を行う。 ・ただONの子育て世代の新規の利用者の獲得と定着をはかる。	ベビー用品の譲渡 不要になったベビー用品の持ち込み	どなたでも	①10/21(金) ②12/19(月) ③2/15(水) ④3/15(水) 午前10時30分～11時30分	なし	①22名 ②20名 ③20名 ④30名	事前に持ち込みなどの問い合わせもあり、初回時から参加が多く、時間前から開始を待っている方もいる。つながる町だふぁみりーさんのメンバーも自分の子どもの面倒をみながら、きてくれた方とおはなしをしたり、子育て情報等の交流をしながらの開催となる。次回の日程の問い合わせもあり、利用者の潜在的要望とマッチした企画となっている。

<申し込み制>	目 的	主な内容	対 象	日 時	費 用	参加総数	様 子 ・ 成 果
<p>【ボランティア】 ベビーグッズを作ろう！ ①マクラメ網でベビーグッズを作りましょう ②マクラメサンタ作り</p>	<p>・物づくりをしながら保護者同士交流することで、子育てスタート期を安心して過ごすことができる。 ・地域のボランティアグループ関わることになり”地域で子育て”の一端となる。</p>	<p>①(1)にぎにぎ (2)マグホルダー ②サンタのキーホルダー 講師：萱沼 綾華氏</p>	<p>0歳～1歳3ヶ月ぐら いまでの乳幼児と 保護者</p>	<p>①4/18(月) (1)午前10時15分～11時 (2)午前11時15分～正午 ②12/12(月) 午前10時30分～11時30分</p>	<p>①(1)250円 (2)350円 ②300円</p>	<p>①(1)3名 (2)8名 ②24名</p>	<p>対象は、0歳児の保護者で、お子さんがまだ歩き回らない年齢なので、そばで様子をみながら制作することができた。近くの方とお話をしながら、リラックスした様子でお子さんに似合う色などを考えながら作っていた。両親で参加される方もいて、パパがお子さんの遊び相手になり、ママはゆっくり集中して作ることができていた。制作を通して子育て中の保護者の方にリラックスできる時間と、地域の方や保護者同士の交流の場を提供できた。</p>
<p>【ボランティア】 入園グッズづくり 共催《つながる町だ ふあみりー》</p>	<p>・地域の方の活動を支援し活躍を促し、地域力の向上を目指す。 ・ただON利用者に同じママの立場からアドバイスや地域情報の提供を行う。 ・ただONの子育て世代の新規の利用者の獲得と定着をはかる。</p>	<p>ふとんカバーや手提げ バッグ、お着替え袋などの制作 ※制作するもための布地などは各自持参 ボランティア：堀内悠子氏</p>	<p>乳幼児の保護者 (子どもの同伴可)</p>	<p>①2/22(水) ②3/15(水) いずれも午前10時30分～正午</p>	<p>なし</p>	<p>①5名 ②5名</p>	<p>つながる町だふあみりーのみなさんは、お子さんのみまもりや制作のお手伝いを担当し、ただONボランティアは制作のお手伝いを行う。マットやおもちゃを用意し、お子さんを見守りながらママたちは制作に励む。2時間くらいでバッグなど作りたいものが完成し、それぞれ終了する。ミシンが家にない方も多く、この時期だけではなく、通年やってほしい、もっと作りたいものがあるなどの声が聞かれた。参加者とボランティアのママが制作しながら情報交換などもでき、地域の方と子育て中の保護者をつなぐことのできた企画となった。</p>

<2>子育て支援事業

【定期事業】

<定例活動>	目的	主な内容	対象	日時	開催回数	参加総数	様子・成果
子ども委員会 (T・H・D!!!)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を発信できる場づくり 活動のなかで、やりがいや達成感を味わい、自信につなげる 子どもセンターがより良い居場所になるように活動する 	ただONのルールやプログラム、イベントなどを子どもの視点で考える 子どもセンターがより良い居場所になるよう活動する 年3回のイベント企画運営 運営委員会参画	小学3年生～18歳	原則毎月第1・3土曜日 午後3時～5時	30回	在籍45名	中、高校生の委員長、副委員長を中心に小学6年生も前に立ち委員会をまとめていた。副委員長は独自に作成したプリントとパワーポイントを用いてメンバーに情報共有を行い士気を高めた。小学6年生は前に立ち進行を行いその楽しさと自信を得ること、リーダーシップを培うことができ次世代の育成につながった。他課や東京都から「子どもの参画」の依頼を受けたり、木曾子どもクラブとの交流、ゴミ拾いイベントの企画実施を通し子ども委員の意見や活動を地域に発信する活動を実施することができた。それらの活動がただONと子ども委員会のPRにつながった。
【ボランティア】 太鼓WOただこON	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化を身近に感じる 地域の方を講師とし、和太鼓の練習を通して、地域との交流、子ども同士から大人まで幅広い交流をはかる ただONのイベントを盛り上げる 	講師:S・T・H・D!!!・鈴木大史氏(ただONOB) 月2回の和太鼓練習 和太鼓の打ち方、基本技術 ただON内外でのイベントに向けて演奏練習	小学生～18歳	原則毎月第1、3土曜日 午後2時～3時 (8月まで①午後1時半～2時②午後2時～3時)	27回	在籍22名	8月まで新しく入ったメンバーと二部制で実施。また新型コロナウイルス感染症対策のため、スタジオと、ことこと(タイヤ太鼓を使用))に分かれて実施した。今年度は1月にただONパーティーができ、子どもの日スペシャル、夏祭りの3回、発表する機会が持てた。子どもたちは太鼓を楽しみながら新しい曲に挑戦したり、さらに上達を目指した。地域の方との繋がりを深め、また子どもたちの経験と自信につながった。
<自由参加>	目的	主な内容	対象	日時	開催回数	参加総数	様子・成果
ドッジボールタイム 協力《桜美林大学》	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢・異学校の集団で遊ぶことを通して、楽しむとともに思いやりの心を育む 	集まった人みんなでドッジボールで遊ぶ	小学生～18歳	毎月第2土曜日 午後2時～3時	11回	509名	小学生の参加が多いことはもちろん、中学生の参加も多かった。中学生が同じチームの小学生に声をかけている姿が随所に見られ、異年齢の交流がドッジボールを通じて行われていた。桜美林大学のボランティアの協力もあり、子どもたちに寄り添ってくれていた。
ドッジボールタイムミニ 協力《桜美林大学》	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢・異学校の集団で遊ぶことを通して、楽しむとともに思いやりの心を育む 	集まった人みんなでドッジボールで遊ぶ	小学1年～4年生	毎月第4土曜日 午後2時30分～3時	10回	123名	5年生になり、参加対象から外れてしまった子ども委員会の子が、開催の度に「審判をやる！」と言ってお手伝いをしてくれた。通っている学校の違う参加者同士で仲良くなり、ドッジボール後に一緒に遊んでいる様子もあった。桜美林大学のボランティア学生と一緒に子どもたちと遊んでくれることもあり、小学生と大学生の異年齢間の交流にも繋がっていた。
カタ部屋 (ボランティアあり)	<ul style="list-style-type: none"> 思春期時期である中高生を対象にし、子ども同士やスタッフとの会話など交流することで、居場所づくりに繋げる 中高生の“やってみたい”を形にしていっきかけを作る 	少し高度なボードゲームを楽しみながら、友達やスタッフに悩みや相談などしやすい場をつくる カタンほかボードゲームおしゃべり	中学生～18歳	毎週水曜日 午後3時～7時	25回	132名	ボランティアの学生が入ってくれることが多く、そのボランティアさんに会いに来る中学生も何人かいた。学校のことやプライベートなことをよく話しており、その子の居場所になっていた。

＜自由参加＞	目的	主な内容	対象	日時	開催回数	参加総数	様子・成果
COME ON☆ボードON (ボランティアあり)	・ボードゲームを通して自分の遊びの幅を広げる ・異年齢や知らない子と関わることでコミュニケーション能力を向上させる	ボードゲームを楽しむ 相談 おしゃべり	小学4年生～18歳	毎月第2日曜日 平日月1回 午後3時～5時	24回	146名	なんとなく始めた子もやってみるととても楽しそうに遊んでいる姿が見られた。ボードゲームに興味を持ち、友達を誘ってまた参加してくれる小学生や中学生もいた。ゲームを介して異年齢の子と仲良くなり、職員との関わりを持つ機会にもなった。
【ボランティア】 うきうき工作 協力《忠生地区青少年委員》	・自分の力や創意工夫で「できる」を実感し、遊びを通して意欲を育て、健やかな成長の促進をはかる ・ボランティアの方に講師となっていたことで、“地域で子育て”の一端となる	工作	幼児とその保護者 小学生～18歳	毎月第4水曜日 午後3時30分～4時30分	10回	100名	季節の工作などを身近なものやリサイクル品を使ってできるものを実施。色塗りや飾り付けなど、子どもたちが好きなように仕上げる事ができた。幼児から中学生まで参加する回もあった。青少年委員の方々は、丁寧に教えてくださり、子どもたちも楽しくのびのびと制作していて、子どもたちが作る楽しさでできた喜びを感じられる時間となった。
【ボランティア】 ほりさんのこうさくや	・自分の力や創意工夫で「できる」を実感し、遊びを通して意欲を育て、健やかな成長の促進をはかる ・ボランティアの方に講師となっていたことで、“地域で子育て”の一端となる	講師：堀内悠子氏 工作	幼児とその保護者 小学生～18歳	毎月第4日曜日 午後1時～3時	11回	215名	地域のボランティアの方による工作。 昨年度から始めた事業だが、リピーターも増え、次の工作を楽しみにしている親子もいた。また、工作も楽しみつづ堀内さんとおしゃべりすることも楽しみにしている人もいた。 工作を楽しみにくる人、おしゃべりを楽しみにくる人と関わり方がそれぞれあり、会話のなかには日常の悩みをこぼす人もいた。子どもの気持ちを受けとめる場所になった。

【不定期事業】

＜自由参加＞	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
【ボランティア】 大学生とわくわくおえかき 協力《桜美林大学》	・地域の大学生が子どもと関わることで“地域で子育て”の一端とする ・異年齢間・異年齢間交流をすることで、コミュニケーション能力を身につける	様々な画材を使って、自由にお絵描きをする	幼児～18歳	①4/17 ②6/25 ③9/25 とも午後1時～4時	なし	69名	大学生が様々な画材を用意し、完全にお絵描きコーナーとなった「ことごと」の部屋に引きつけられ、参加する小学生や幼児連れの保護者などがいた。お絵描きを通じてミニゲームをしたり、おしゃべりしたりと、大学生と子どもたちが密にコミュニケーションをとることができていた。
【ボランティア】 大学生と一緒に遊ぼう！ 協力《桜美林大学》	・集まったみんなで遊びを楽しむ ・地域の大学生が子どもと関わることで“地域で子育て”の一端とする ・異年齢間交流をすることで、コミュニケーション能力を身につける	①6/25(土) どんじゃんけん ②7/17(土) ・じゃんけん列車 ・手つなぎオニ ③7/29(金) ・韓国語クイズ ・ドロケイ	幼児と保護者 小学生～18歳	①6/12(土) ②7/10(土) ③7/29(金) いずれも午後3時～4時	なし	①18名 ②18名 ③16名	ボランティアの大学生は、多文化協働や子どもの貧困など、履修している授業が各回と異なるため、毎回大学生のメンバーが変わり、いろいろな関わりが生まれていた。外国人留学生の方も多かったため、中国語や韓国語を用いたのプログラムとなり、子どもたちも興味を引いていた。大学生のプログラムを楽しみにしている小学生もおり、遊びを通じて異年齢間交流の場となっていた。

<自由参加>	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
<夏> 【ボランティア】 こわ〜いおはなし会 協力《ひろば文庫》	<ul style="list-style-type: none"> ・親子のコミュニケーションが豊かになる ・多様な児童文化に触れ豊かな情緒が育まれる ・地域の人材を活用することで安心して地域の中で子育てができる 	絵本・紙芝居・素話・おばけ登場など	どなたでも	8/4(木) 午後2時～2時30分	なし	29名	夏の恒例行事。幼児から中学生までの子どもたちが、暗くした部屋の中で、真剣におはなしをきいていた。おはなしの怖さも順を追うことにあがっていき、はじめは笑っていた小学生も、最後は真顔になって聞いていた。毎年続けてきているボランティアの方々なので、子どもたちの様子をみながらすすめてくれるなど工夫があった。最後にはおばけもでてきて、夏を感じるイベントとなった。
(夏) 南国気分！ 夏のドッジボール＆ ビーチバレー！	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢・異学校の集団で遊ぶことを通して、楽しむとともに思いやりの心を育てる。 ・ただON館内にて夏のビーチで遊んでいるような気分を味わう 	集まった人みんなです <small>ドッジボール、バレーボール</small> で遊ぶ	小学生～18歳	8/5(金) 午後3時～4時	なし	38名	ビーチバレーボールを用いて、ドッジボールとバレーボールを行なった。特に細かなルールは設けなかったが、皆ボールをはじき返すことに夢中になっていた。小学校低学年から高校生までの参加があり、高校生は小学生などの自分たちより小さい子 <small>の</small> ことを配慮しながらも賑やかな空間を楽しむことができた。異年齢間の交流に繋がっていた。
(夏) 【ボランティア】 まちふるタイム 協力《まちっこほいふる》	<ul style="list-style-type: none"> ・工作や遊びを楽しむ ・地域のボランティアが子どもと関わることで”地域で子育て”の一端とする ・異年齢間交流をすることで、コミュニケーション能力を身につける 	①身体をつかった遊び ②ハロウィンアクセサリ <small>ー</small> の工作	幼児と保護者 小学生～18歳	①8/7(日) ②10/16(日) 午後2時～2時45分	なし	37名	ただONの元利用者4人組が、企画実施した。①は身体を使った遊びや新聞紙を用いたおにごっこ、ドッジボールを行った。②はハロウィンイベントとして、ハロウィンアクセサリづくりを行った。キラキラしたビーズなど、様々な材料を目の前に子どもたちは目を輝かせていた。地域のボランティアが用意した遊びや工作を通じて、年齢の異なる者同士が繋がることができていた。
<夏> 自由工作Day	<ul style="list-style-type: none"> ・物づくりを通じて自己表現や創造性を養い、健やかな成長の促進をはかる ・工作を通じて、子どもの「できる」という自信を育む 	ペットボトルやトレットペーパー芯などの廃材を使った自由な工作	どなたでも	8/15(月) 午前11～午後4時	なし	24名	廃材を使用して自由に工作を楽しむ場としてことことで実施。親子や兄弟、友達と工作を楽しんでいた。小学生女子3人は空き箱の中にダンボールの壁を作ってその中をビーダマを転がす遊びをおしゃべりを楽しみながら作っていた。他の子が作る作品を見て、自分の工作のアイデアに取り入れる人もいた。廃材の工作により、自分で工夫をこらした形にする創意工夫の楽しさを実感することができていた。また、これをきっかけにただONで実施する工作事業(ほりさんのこうさくや)に参加する人もいて、遊びを深めるきっかけとなった。
<夏> 子ども委員会企画 夏祭り	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども委員会がイベントの企画運営を通して、意欲、達成感、協調性、自信を育み、健やかな成長の促進をはかる ・子ども委員会が新型コロナウイルスの社会的問題の中で活動可能な事業を検討し、新しい生活様式を学ぶ機会とする ・参加者が子ども委員会やその他主催者の姿を見て、今後自分がやりたいものを見つかる機会とし、子どもの参画に繋げる 	射的 ミサガ作り 青少年委員工作 大学生と遊ぼう	幼児～18歳	8/21(日) 正午～午後4時	なし	537名	昨年よりもコロナの規制が緩和されたこともあり、従来通りではないが、コロナ前の夏祭りに少し近づいた形で開催できた。食べ物の提供については個包装の物であれば提供可とし、飲食スペースも設けた。プレイルームは前後半と内容を分け、前半は太鼓の演奏や、バンドの演奏を行ない、後半はゲームコーナーに切り替えた。ステージを設けてのバンドの演奏については実に2年ぶりの復活で、普段スタジオで練習をしているバンドの高校生たちは演奏を披露することができてとても喜んでいました。学校の異なるバンドの子同士で仲良くなっている場面も見受けられた。子ども委員会は来館者の対応に追われ館内をせわしく動いていたが、その分充実感も感じている様子だった。その他、工作ブースや遊びのブース等、総勢20名弱のボランティアの皆さんにお手伝いいただき、利用者の親からも「子どもがお兄さんお姉さんとたくさん遊んでいたかきとても満足している」との声もいただいた。

<自由参加>	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
おもちゃ病院 協力《おもちゃ病院》	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ病院のドクターとおもちゃを通じて交流し、他者との関わり方を身につける ・壊れてしまったおもちゃを一緒に修理することでモノを大切にすることを学ぶ ・市民団体の方がボランティア講師として関わって下さることにより、“地域で子育て”の一端となる 	おもちゃ病院のドクターと子どもと一緒に修理することでモノを大切に、壊れてしまったおもちゃを直す	どなたでも	10/29(土) 午前10時～午後2時	必要に応じて部 品代あり	17組	おもちゃ病院まちだのドクター5名で開院。午前中は出だしはゆっくりだったが、午後になるとおもちゃ病院目当ての来館者が増えた。おもちゃによって担当のドクターが分かれていた。ドクターが修理している様子をじっと見ている子もいた。修理し終えたおもちゃを見て嬉しそうにしている子の姿があり、“地域で子育て”の一場面となっていた。
子ども委員会企画 ハロウィンパーティー 協力《桜美林大学、TAM》	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども委員会がイベントの企画運営を通して、意欲、達成感、協調性、自信を育み、健やかな成長の促進をはかる ・参加者が子ども委員会やその他主催者の姿を見て、今後自分がやりたいものを見つける機会とし、子どもの参加に繋げる ・地域の大学生が子ども委員会と協働することで“地域で子育て”の一端とする 	ステッキづくり ポーリング キャンディ釣り ハロウィン帽子づくり フォトスポット	0歳～18歳 と保護者	10/30(土) 午後1時～4時	なし	424名	桜美林大学の大学生をはじめ、元スタッフや元利用者など多くのボランティアにイベントの手伝いをしていただいた。感染対策を実施しながらゲームコーナー、工作、フォトスポット、マジックショーなど9個のコーナーを実施した。仮装をして参加する人も多く盛況だった。多くの人が来館して賑やかだったが、入場制限は行わなかった。子ども委員会は昨年度の経験と残りの準備時間を考え、計画的に準備をすることができた。お客さんの混雑状況を見て、ボーナスタイムを設定するなど工夫しながら企画運営している姿や、積極的に下の子に声をかけてまとめる姿もあり、次世代育成につながった。
もうすぐXmas ～まちきれないから 楽しんじゃON♪～ 主催【小山田子ども クラブ】 共催【子ども委員会】	<ul style="list-style-type: none"> ・小山田子どもクラブのスタッフが、小山田子どもクラブ設立前の研修として、イベントの作り方を学ぶ ・子ども委員会が地域の大人と一緒に企画を実施することで、“地域で子育ての一端”とする ・子ども委員会がイベントの企画運営を通して、意欲、達成感、協調性、自信を育み、健やかな成長の促進をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤外線ゲーム ・紙コップ積み ・音楽演奏コーナー ・プレゼント釣り 	幼児と保護者 小学生～18歳	12/18(土) 午後1時～4時	なし	430名	今回は、建設中の小山田子どもクラブのスタッフが主催となり、イベントを開催した。子ども委員会は共催として、釣りのゲームコーナーを設けた。赤いヒモを張り巡らせた「赤外線」を潜り抜けるゲームや、大量の紙コップをどれだけ素早く積めるかを競うゲーム、フリーでピアノを弾いたり、ギターを演奏したり、歌を歌ったりできる発表のコーナーを設けた。小学生から中高生までが楽しめる内容となっており、少し早めのクリスマスを感じられるイベントになった。子ども委員会が共催となってイベントを行う機会は現メンバーでは初めてだったので、裏方として企画を客観的に見る良い機会となり、次の企画に活かす経験となった。
昔あそび 協力《町田史考会》	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な遊びに親しみを持つ ・普段身近にない遊びに触れ、楽しむ ・伝承遊びを通じて異年齢の子ども、世代を超え関わり、地域で子育ての一端とする 	ゴムでつぼう作り・遊び、紙ヒコーキづくり、けん玉、コマまわし、だるまおとし	幼児と保護者 小学生～18歳	1/8(日) 午後1時～3時	なし	16名	3連休の真ん中だったこともあり、来館者自体が少なく昔あそびの参加者も例年より少なかった。たっぷり時間をかけているいろいろなコーナーをまわる子もいれば、友達の待ち合わせ時間に少し参加してみる子もいた。史考会の方から「すごいすごい！」と声をかけてもらう子が多く、子どもたちは史考会の方と異年齢の関わりを楽しむことができた。

<自由参加>	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
子ども委員会企画 ただONパーティー9	<p>【子ども委員会】 イベントの企画運営を通して、意欲、達成感、協調性、自信を育み、健やかな成長の促進をはかる。 【来場者(子ども)】 T・H・D!!!や発表者の姿を見て、今後、自分がやりたいものを見つける。</p> <p>主体的に「ただON」や地域に関わっていけるようになる。 【ただON】 関係者、利用者に日頃の感謝の気持ちを伝える場とする。 子ども達の“やりたい”を実現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども委員会 玉入れ ・子ども委員会 ダーツ ・木曾子どもクラブ ス ・マートボール ・青少年委員会 工作 ・太鼓WOたたこON ・木曾中吹奏楽部 ・高校生バンド演奏 	幼児と保護者 小学生～18歳	1/22(日) 正午～4時	なし	545名	<p>コロナの影響で3年ぶりのただONパーティーとなった。感染症対策をし、従来よりも規模は小さいが、個包装の食べ物の販売やステージを設営しての吹奏楽やバンドの演奏など、少しずつではあるが従来の誕生祭に戻しつつ実施することができた。ステージでは太鼓や吹奏楽、バンド、大道芸など、様々な発表があり盛り上がっていた。コーナーでは飲食販売が賑わいを見せていた。工作やゲーム、マジックショーなども客足は遅めだったが、次第に子どもたちが集まり楽しむ様子が見られた。子ども委員会は遊びのコーナーを2ブース出展し、それぞれの担当ブースの運営に勤しんでおり、充実感を感じている様子だった。総勢12名のボランティアも参加してくださり、地域の方々の協力のもと無事イベントを終えることができ広く交流の場となった。</p>
春のコンサート 出演《ママさんブラス はまびよ隊》	<ul style="list-style-type: none"> ・どの世代でも楽しめるコンサートを年度のおわりに行き、1年のしめくりとともに春の訪れを感じるイベントにする。 ・なじみのある曲や楽器紹介などを通して、音楽やブラスバンドに親しむ。 ・地域のママたちの団体に出演していただき、子どもたちや保護者との交流をはかる。 	ブラスバンドコンサート	どなたでも	3/11(土) 午前11時～11時 40分	なし	70名	<p>開始間際に来る方も多く、開始前には乳幼児の親子連れや小学生などで席も埋まる。小さい子も知っている曲ばかりなので、体を揺らして音楽になり楽しんでいる姿がみられる。曲の合間には楽器紹介があったり、曲にちなんだトロロやねこパスも出てきて、会場内も盛り上がった。春の訪れを感じる音楽に触れ、感性を育てるイベントとなった。</p>
ふしぎがいっぱい工 作おはなし会 共催【忠生図書館】	<ul style="list-style-type: none"> ・忠生図書館と連携することで、地域でのつながりが出来、子どもや保護者が図書館を身近に感じ、おはなしにふれる場を提供する。 	忠生図書館職員 ・お話会と工作	幼児とその保護者 小学生	3/27(月) 午後3時～3時30 分	なし	13名	<p>忠生図書館の方がだまし絵などの絵本と工作とお話を持ってただONへ出張してくれた。事前申し込みだったが、ほとんどが当日参加。幼児親子から小学校高学年まで参加してくれた。絵が何に見えるかなど、子どもたちの問いかけるところではみない生懸命に絵を見る姿が見られた。不思議な絵本を見て、今度借りてみようという声も聞かれ、忠生図書館に興味を持ってもらえる良い機会となった。</p>
<申し込み制>	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
【ボランティア】 オリジナルリングノ ートを作ろう 協力《手作り文具雑 貨工房》	<ul style="list-style-type: none"> ・物作りを通して自己表現や創造性を養い、健やかな成長の促進をはかる ・地域の方がボランティア講師として関わってくださることにより、“地域で子育て”の一端となる 	<ul style="list-style-type: none"> ①表紙にデコレーション ②中紙とリングの色を選ぶ ③リングを留める 	①乳幼児と保護者 ②小学生～18歳	6/4(土) ①午前10時20分 ～11時 ②午前11時15分 ～正午	300円	19名	<p>当日の申込みもあり、乳幼児、小学生とも募集人数を超えて受け入れてもらった。乳幼児は手形足形を取る親子がほとんど、手形に顔を描いたり、大好きなシールを盛りだくさんに貼ったりとかわいい作品ができていた。小学生以上はマスキングテープやシールで縁取りする子が多かった。表と裏に差をつけたり、バランスを考えて貼る様子が見られた。地域の方の専門性を活かし、実際にノートの用紙選びや、機械でリングノートを閉じる作業もやり、貴重な経験をすることができた。</p>

<申し込み制>	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
<p><夏> まちけあキッズ 介護のお仕事体験 共催【いきいき総務課】</p>	<p>・いきいき総務課との共催事業 ・地域の介護施設の方から介護の仕事について教わり、介護の仕事に興味関心をもつきっかけとする ・他課との連携・共催により”地域で子育て”の一端となる</p>	<p>介護士体験：車いす操作体験 看護師体験：コスチューム体験、問診ロールプレイ、体温・SPO2測定 栄養士体験：食中毒予防のための手洗い(手洗いチェッカー)</p>	<p>小学生</p>	<p>7/28(木) ①午後1時30分～2時30分 ②午後3時～4時</p>	<p>なし</p>	<p>38名</p>	<p>参加者は介護士体験、看護師体験、栄養士体験と3つのコーナーをローテーションで体験することができ、楽しみながら仕事への関心を高めることができた。 野津田高校福祉科のボランティアと参加者が交流する場面もあり、お互いに楽しんでいる様子だった。仕事を通じてかかわりを持つことの楽しさを知る機会となった。 対象は小学生だったが介護人材開発センターのご厚意で館内にいた幼児1名と中学生2名も参加することができた。館内で遊んでいる事業に参加していない人も、事業の様子が気になって2階の窓から見ている様子もあり、より多くの人に介護のお仕事をってもらうきっかけとなった。</p>
<p><夏> 【ボランティア】 ジェルキャンドルを作ろう</p>	<p>・物づくりを通じて自己表現や創造性を養い、健やかな成長の促進をはかる ・地域の方がボランティア講師として関わってくださることにより、”地域で子育て”の一端となる。</p>	<p>講師：K.Pleasant Candle岩瀬恭子氏 瓶の中に貝殻などをいれて、ジェルキャンドルを流し込み、夏をイメージしたジェルキャンドルをつくる</p>	<p>小学生～18歳</p>	<p>7/28(木) 午前10時30分～11時30分</p>	<p>500円</p>	<p>12名</p>	<p>ガラスの瓶にキャンドル芯、砂、貝殻を並べ、青く色づけたジェルキャンドルを流し込んでいく。その様子を見て「美しい海を閉じ込めたよう」という感想もあった。きれいな貝やキャンドルの様子に子どもたちの興味もあがり、夢中になってものづくりに取り組む時間となっていた。「楽しかった」「またやりたい」という感想が多かった。子どもたちの制作の楽しさと喜びにつながる機会となった。</p>
<p><夏> 木工作Day</p>	<p>・木材に触れ、物づくりを楽しむ ・木工作を通じて、子どもの「できる」という自信を育む</p>	<p>木端を糸鋸やのこぎり、かなづち、ボンドなどを使って自由な作品作り</p>	<p>小学生～18歳</p>	<p>8/1(金) ①午後1時30分～3時 ②午後3時15分～4時45分</p>	<p>なし</p>	<p>27名</p>	<p>まちだサポーターズの方3名と、高校生が1名ボランティアで参加してくれた。イスや机などの実用的なものを作る子が多く、中には実際に作ったイスに座って強度を確かめたり、弟に座らせてみたりしながら完成度を確かめている子もいた。それぞれ思い思いの作品の完成を経て、達成感を感じているようだった。</p>
<p><夏> 【ボランティア】 外来生物捕獲作戦</p>	<p>・生きものに興味を持つきっかけとする ・外来生物が生態系にどのような影響を与えているのか、正しい知識を身につける ・地域の若者が講師となることで、異年齢間コミュニケーションを図る ・若者が活躍できる場とする</p>	<p>・忠生公園にいる生きものについて学ぶ(動画にて) ・外来生物、在来生物について学ぶ(スライドにて) ・生きものクイズを行う(スライドにて) ・実際に調査をする(忠生公園にて)</p>	<p>小学生～18歳</p>	<p>8/24(水) 午前9時～10時30分</p>	<p>なし</p>	<p>12名</p>	<p>昨年に引き続き2回目の開催。昨年は高校3年生だった子が大学生となり今回も講師として参加。また、忠生公園を管理している池田氏も講師として参加。忠生公園にいる生物についての話と、外来生物・在来生物についての話を聞いたあとに実際に公園内の池にて、外来生物の捕獲を行なった。結果、アメリカザリガニやウシガエルのおたまジャクシが捕れた。「外来生物は人間が食用として持ち込んだ生き物なので、それが生息してしまっていることに関して、生き物自体は悪くない。人間の手で解決しないとイケない」ということを参加者みんなで学んだ。親の参加も3組程あった。大学生は、きちんとした外来生物の知識を小学生に身につけてほしいとの思いがあり、それに対して小学生も一生懸命聞いている様子があった。大学生(若者)の活躍にもつながった。</p>

<申し込み制>	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
〈夏〉 ガラス彫体験 共催【町田市立博物館】	<ul style="list-style-type: none"> ・文化振興課との共催事業 ・工芸美術への知識を深める ・物作りを通して自己表現や創造性を養い、健やかな成長の促進をはかる ・他課と連携・共催により“地域で子育て”の一端となる 	講師：後閑博明氏 ガラス作家の指導のもと、ペン型のハンドグライダーを使って、コップに自分の好きな絵を彫る	小学3年生～18歳	8/25(木) ①午後1時～2時 ②午後3時～4時	500円	19名	体調不良等で当日キャンセルがあり、当日来ていた子も一人参加。博物館の方からは、ただONの子は「すぐに取りかかる子が多い」「時間配分がいい」などの感想もいただいた。自分のスマホで彫りたい絵を調べながら彫る子もいた。真剣に考えて取り組む姿が見られ、それぞれの個性が光るものが出来あがっていた。
〈夏〉 ガラスフュージング withぱお 共催【子どもセンターぱお】	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動ができる場の充実 ・他子どもセンターのPR 	子どもセンターぱお職員 ・ガラスを使って、はしおきとマグネット作り	小学生～18歳	8/5(金) 午後3時～4時	300円	12名	たくさんの種類のガラスの破片から自分の使いたいものを取り、それぞれ凝ったデザインを考え、素敵な作品を完成させていた。職員に確認しながら、真剣に作る姿が見られた。早く終わる子が多かったが、時間いっぱい丁寧に仕上げる子も何人かいた。子どもセンターぱおを知っている子と知らない子がいたが、相原にある子どもセンターぱおを知ってもらう良い機会ともなった。
(夏) 【ボランティア】 クレイケーキ作り& フォトブース	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の方と地域の子どもや親子が顔みしりになり、今後もつながるきっかけとなるよう促す。 ・4才から6才といった幼稚園在園の子どもを対象とすることにより、夏休みの子育てを応援する。 	講師：萱沼 綾華氏 ・軽量紙粘土でオリジナルのケーキ作り ・フォトブース設置 ・時間内フォトブースのみの利用も可(申込不要)	①4歳以上の幼児と保護者 ②小学生以上	8/3(水) ①午前10時30分～11時 ②午後2時～3時	150円	①5組 ②15名	午前中の回では4,5歳児の長期休みの来館を促したが、実際は定員が埋まらず、少人数の親子でじっくり行われる。小学生以上の回は満員でそれぞれ好きなように個性的なものができあがっていた。作り終えた後は、講師の方が用意してくれたフォトブースで出来上がった作品とともに記念写真を撮り、夏の思い出のひとつとなった。
(夏・冬) アニメ理科実験教室 水ライトをつくらう！	<ul style="list-style-type: none"> ・実験での事象に触れる機会を通して、科学について興味や関心を持つ ・体験を通して子どもから大人まで幅広く交流を促し、コミュニケーション能力を育む ・地域の方がボランティア講師として関わって下さることにより、“地域で子育て”の一端となる 	講師：小花利一郎氏 アニメの中に出てくる水ライトを実際に作る	小学生～中学生	①8/8(月) 午前10時30分～正午 ②12/17(土) 午前10時30分～正午	500円	①12名 ②13名	アニメを見終わったあと、子どもたちからたくさんの質問が講師に向けられ、参加者は綺麗に光る水ライト(科学)に興味を示していた。また、夏だけではなく冬は水ライトを紙コップで覆い、クリスマスツリーに見立てて子どもの興味を引いていた。低学年の子の参加が多く、アニメーションを通じて講師の方とのやり取りを楽しんでいる様子が伺えた。科学に興味を持つきっかけとなった。
(夏) 【ボランティア】 ほりさんこうさくスペシャル	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力や創意工夫で「できる」を実感し、遊びを通して意欲を育て、健やかな成長の促進をはかる ・ボランティアの方に講師となつていただくことで、“地域で子育て”の一端となる 	講師：堀内悠子氏 工作	幼児とその保護者 小学生～18歳	8/28(日) ①午後1時～ ②午後1時30分～ ③午後2時～ ④午後2時30分～	なし	49名	「キラキラ☆シャボン玉を作ろう！」キラキラテープを使った、くるくる回すと消えないシャボン玉になる工作。夏休みスペシャルということで、いつもより定員を増やして実施。下準備をしたこともあり、そこまで時間がかからず簡単に作れていた。出来あがったものを見て、「キレイー！！」という声もたくさんあがっていた。毎月定例でやっている工作事業を夏休み中に館内に遊びに来ている来館者がふらっと参加しやすい形で実施したため、多くの参加人数につながり、毎月開催している「ほりさんのこうさくや」のPRにつながった。また、多くの人に工作を楽しんでもらうことができた。

<申し込み制>	目的	主な内容	対象	日時	費用	参加総数	様子・成果
【ボランティア】 よだちゃんとギターを弾いてみよう！	・ギターを通して音楽に触れるきっかけをつくり、友達の輪を広げるきっかけとする ・自分で音を奏でる楽しさを知る ・地域のボランティアとの交流を通じて、コミュニケーションの能力を育む	講師：依田 昂己氏 ・ピックの持ち方 ・楽譜の読み方 ・演奏 など	小学校4年生～18歳	①12/11(日) ②1/28(日) ③2/25(土) 午前10時30分～正午	なし	6名	小学生から高校生までの参加があった。少数での開催だったこともあり、講師と参加者は密にコミュニケーションが取れていた。最後は参加者それぞれが好きな曲をなんとか1フレーズ弾いて、終了した。初回参加した高校生が2回目も参加していたりと、地域のボランティアと交流する機会につながっていた。
【ボランティア】 ただONドラム教室	・音楽活動を通じて、同世代の横の関係を広げるきっかけとする ・若者が感じている音楽活動への課題を解消する手助けをする ・若者が活躍できる場を広げるきっかけとする ・地域の大人との体験活動を通じて、コミュニケーション能力を育む	講師：太田 耕平氏 高校生のドラム演奏に関する悩み事に応えるためのドラム教室	高校生～18歳	3/3(金)午後5時～6時30分	なし	5名	セミプロドラマーの太田耕平氏を招いた。ドラムスティックの持ち方などの基礎的なところから高校生に指導をして下さった。高校生は軽音部で活動をしている子からドラム未経験者の子の参加があり、講師の方はそれぞれのペースに合わせて対応してくださっていた。個人のモチベーションアップにもかなり繋がった様子で、事業終了後も、教わったリズムパターンを叩き続けている様子があった。また、参加者同士が仲良くなり、お互いのバンドの話をしたりと同世代の関係づくりの場にもなった。
はやく走れるようになる講座① プロテインの飲み方講座② 共催【メガロス町田】	・子どもの体力向上 ・走り方のコツを覚え、子どもたちに自信につなげるとともに走ることに興味を持ってもらう。 ・プロテインについて正しい知識を得る。	講師：メガロス町田スタッフ	①小学生～18歳 ②小学生～18歳、保護者	3/11(土) ①午後2時～3時 ②午後3時～3時30分	なし	①18名 ②11名	町田市が包括協定を結んだスポーツクラブメガロスの方による「はやく走れるようになる講座」と「プロテインの飲み方講座」。走る講座ではルールを決めての鬼ごっこでたくさん足を使った後、スタートや腕の振りのポイントなども教わり、楽しみながら走る力を伸ばせる時間となった。始めと終わりで走り方が全然違う子も多かった。なかなかハードに動いていたが、子どもたちはコーチにもすぐに慣れて楽しそうに参加していた。プロテインの講座は中学生や保護者も参加。「プロテイン＝タンパク質」やどうしてプロテインが必要かなどの説明の後、プロテイン飲料を試飲。小学生の子などはまだよくわからない様子だった。終わってから参加してくれた保護者(父)が熱心に質問する姿もあった。プロテインについて正しい知識を学べる機会となった。
【ボランティア】 ほりさんのぬいものくや	・制作体験を通し、子どもたちの興味あるものへの探究を促し、意欲を育む。 ・地域の人材を活用することで、子どもたちとつなげ、地域の中で子どもを育む土台を作る	ボランティア：堀内悠子氏 手縫いで作るきんちゃく袋	小学5年生～18歳	3/29(水) 午後1時30分～3時30分	なし	4名	常連の高校生が一人と、当日館内で声をかけて集まった5年生の女の子三人が参加する。この企画は、いつもボランティアで来てくれている方からの発案で企画されたもので、準備から行っていただく。子どもたちは、自分たちで好きな布地を選び、作り方を相談したりボランティアさんとおしゃべりを楽しみながら作り上げていた。常連の高校生とボランティアさんも小学生の頃からの顔なじみで、ただONを介して地域でつながりのもてる機会となっている。

【スタジオ講習】

内容	開催日	開催回数	対象	参加総数	備考
音楽スタジオ 「ふあんふあん」を利用するための講習会	月曜日・土曜日・日曜日 午後4時30分～6時 午後3時30分～5時	15回	中学生～18歳	35名	町田高校や小川高校など、忠生地域の学校以外の高校生の受講も多く、バンドよりも、個人での利用のための受講が目立っていた。